

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-302902

(43) 公開日 平成11年(1999)11月2日

(51) Int.Cl.⁵

A 4 1 B 9/04

識別記号

F I

A 4 1 B 9/04

B

G

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-110514

(22) 出願日 平成10年(1998)4月21日

(71) 出願人 592264145

ソカイ株式会社

奈良県橿原市田中町162番地

(72) 発明者 祖関 芳則

橿原市醍醐町148番地の10

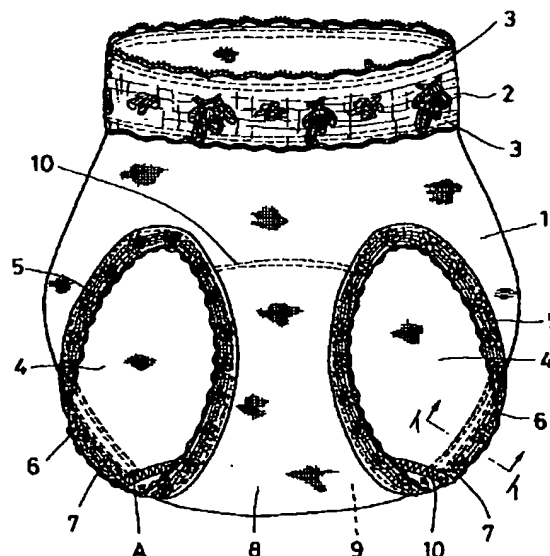
(74) 代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ショーツ

(57) 【要約】

【課題】 腹部の強力な引締めと背面の整形機能を備えたショーツを提供することである。

【解決手段】 伸縮性編地から身頃1を形成し、前記身頃の上縁に幅広の弾性ウエスト・バンド2を縫い付けると共に、身頃の両はき口4周縁の背面側の要所に伸長制限テープ6を縫い付けたのである。



Best Available Copy

【特許請求の範囲】

【請求項1】 伸縮性編地から身頃を形成し、前記身頃の上縁に幅広の弾性ウエスト・バンドを縫い付けると共に、身頃の両はき口周縁の背面側の要所に伸長制限テープを縫い付けたショーツ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、整形機能を備えたショーツに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のショーツとして、編糸に弾性糸を加えて編立てた伸縮性編地からなり、上縁のウエスト部周縁及び下部の両はき口周縁に伸縮性飾りレース帯を縫い付け縁取りしたものが普及している。

【0003】ところが、各周縁の伸縮性飾りレース帯は伸びやすく弱い力でも大きく伸びるため、身体への圧接力が弱く、たるんだ腹部やヒップのシェーブアップ作用が小さいという問題点がある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】そこで、この発明の課題は、腹部の強力な引締めと背面のヒップアップ等の整形機能を備えたショーツを提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、この発明においては、伸縮性編地から身頃を形成し、前記身頃の上縁に幅広の弾性ウエスト・バンドを縫い付けると共に、身頃の両はき口周縁の背面側の要所に伸長制限テープを縫い付けたのである。

【0006】

【作用】前記ウエスト・バンドは、従来にない幅広のハイパワーのものであり、しっかりとウエストに圧接して強力に腹部のたるみを引き、さらに、左右のはき口周縁の背面側の伸びが、伸びにくい伸長制限テープによって所要量以下に抑制されるため、背面からヒップのたるみが引き締められ、ヒップのふくらみを強調すると共に、弾性ウエスト・バンドの固定性と相俟って背面ヒップに大きい引き上げ力が作用する。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施形態を添付図面に基いて説明する。

【0008】図1及び図2に示すように、この発明のショーツは、綿糸、合成繊維等を主体とする編糸に、編地に伸縮弾性を付与するスパンデックス等の弾性糸を加えて編立てた平編組織の伸縮性筒形編地から身頃1が形成され、身頃1の上縁に幅広の弾性ウエスト・バンド2がロックミシン目3、3によって縫い付けられてウエスト部が形成され、身頃1の股上両はき口4の全周縁には伸縮性レース縁取帯5が縫い付けられると共に、この両はき口4の背面側下半部に比較的伸びにくい伸長制限テープ6がロックミシン目7によって縫い付けられてなるも

のである。

【0009】さらに、身頃1には、股底部8の内側に当て布9がロックミシン目10、10によって縫い付けられている。なお、身頃1は、上述のように筒形編地から形成されるものに限定されず、前身頃、後身頃、クロッチ片（股片）等を立体的に縫合したものにも適用される。

【0010】前記ウエスト・バンド2は、幅寸法が6〜7cmの幅広で花柄模様の飾りレース帯であり、横方向に多くの弾性糸が編込まれて横方向に強応力ハイパワーの伸縮弾性を有し、縦方向には伸びの小さいナイロンフィラメント等が直線状に編込まれてほとんど伸びないようになっている。

【0011】前記伸長制限テープ6は、仮燃スピンドル及びスピナを用いて加燃・熱固定・解燃してなる高伸縮性の合成繊維かさ高加工糸が用いられた比較的粗目の編組物であり、長さ方向に引張ると伸び率が10〜50%程度の所要量の伸びまでに制限される伸長特性を備えている。

【0012】なお、はき口4の周縁のレース縁取帯5は、弾性糸が長さ方向に編み込んであり、長さ方向に強く引張ると最大100%程度即ち約2倍位まで伸びるが伸長制限テープ6が装着されている部分は伸びが所要限界に制限されるようになる。

【0013】伸長制限テープ6は、幅寸法が5〜10mm程度で股底部の背面のロックミシン目10を起点Aとし背面のほぼ中央に至る約7〜13cm、好ましくは約10cmの長さのものであり、レース縁取帯5の内側に位置し（図2参照）、外側から見えず体裁が良い。なお、伸びがあまり小さいと、ショーツ装着の際や行動中に違和感があり、少なくとも10%程度の伸びは必要である。

【0014】前記伸長制限テープ6の伸長制限特性は、素材の種類、付与した3次元的なクリンプの程度、編組組織等のほかにテープ本体の幅寸法及び長さ寸法によっても決まる。

【0015】なお、前記伸長制限テープ6は、用途に対応して、素材の種類、かさ高加工法、編組組織を基にする伸長制限度合やテープ本体の幅寸法及び長さ寸法等を適宜選択することができ、また上述のようなかさ高加工糸の編組物のほか、スパンデックス等の弾性糸を編み込み、糸が斜に交錯した平打ち組み物等他の形式のテープとすることもできる。

【0016】前記ショーツは、図3に示すように、着用時には弾性ウエスト・バンド2が幅広で強応力ハイパワーにウエストに強く圧接して腹部のたるみが強く引き締められ（矢印方向X）、大きい腹部整形機能が発生する。

【0017】さらに、はき口周縁背面側の比較的伸びにくい伸長制限テープ6が、背面からヒップのたるみを引

3

き締めると共に、弾性ウエスト・バンドのウエスト部への固定性とウエル方向即ち縦方向に伸びにくい身頃地の特性（平編ニット地の通常の性質）とが相俟ってヒップを持ち上げる引上げ力（矢印方向Y）が強く作用するようになる。

【0018】なお、この発明に係るショーツは、ショートパンツ、ガードル、水着のパンツ、ヒップアップ・パンティストッキング等のパンティ部のほかショーツ型生理帯等にも適用することができる。

【0019】

【発明の効果】この発明によれば、以上のように、着用時には、ウエスト・バンド及び両はき口周縁の背面下半部が身体にしっかり固定されるようになり、幅広でハイパワーのウエスト・バンドによって腹部のたるみを強く引き締める腹部整形機能が発生すると共に、身頃の背面でヒップの側縁に沿って伸縮性の小さいテープによって

4

ヒップを押圧しふくみを強調する機能が発生する等の身体ボトムの整形効果が優れている。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一例を示す正面図

【図2】図1のイーイー線に沿った拡大断面図

【図3】この発明の機能を示す説明図

【符号の説明】

1 身頃

2 ウエスト・バンド

10 3、7、10 ロックミシン目

4 はき口

5 レース縁取帯

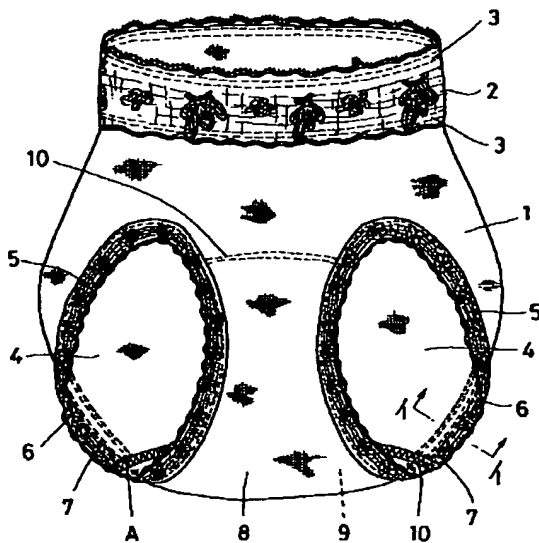
6 伸長制限テープ

8 股底部

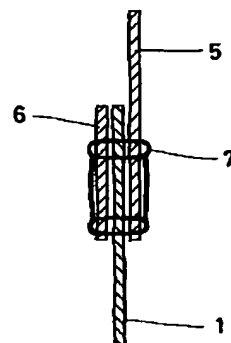
9 当て布

A 起点

【図1】



【図2】



【図3】

